

一般社団法人宮崎青年会議所 2023 年度合同委員会報告書

人財アカデミー委員会

理 事 長 川越 大輔 君 提出日: 2022年10月26日
担当副理事長 高畑 智穂 君 委員長: 曾地 英樹
担当常任理事 野村 翔悟 君 作成者: 大中 貴生

開催日時:	2022年10月21日 19:00~20:30				
開催場所:	宮崎中央公民館				
出席者氏名:	曾地 英樹	岩倉 誠吾	門口 将宏	大中 貴生	二宮 雅和
	西本 誠				
					計6名
欠席者氏名:	金本 純一	重永 和樹	清永 太一	谷名 祐	林 貴信
					計6名
出席率:	54%				

- 開会宣言 副理事長 高畑 智穂 君
- JCI Creed 唱和 人財グループ担当常任理事 野村 翔悟 君
- JCI Mission 並びに JCI Vision 唱和 未来グループ担当常任理事 甲斐 智大 君
- JC 宣言文並びに綱領唱和 革新グループ担当常任理事 星山 剛 君
- 理事長挨拶 第 72 代理事長予定者 川越 大輔 君

改めまして、私が一般社団法人宮崎青年会議所 72 代理事長の川越大輔です。よろしくお願い致します。

2023 年度の合同委員会、ここを皮切りに委員会がスタート致します。ここでしっかりと交流をふかめて 1 年間の運動に良い影響を及ぼすようにしていただきたいと思っております。

ここで遠慮すると今後参加しづらくなりますので、積極的さが一番大事だと思っています。

今回一番伝えたいことは、この 50 分間の為に各委員長がどれだけ時間をかけて準備をしてきたかということです。そこを認識していただいてこの時間を過ごしていただきたいと思います。

そして 20 時以降は拡大キックオフがあります。皆さんと一緒に拡大をやっていきたいという時間になりますので、そこまで残っていただきたいとも思います。

結びとなりますが、来年、多様化する価値観を受け入れ、変化に挑戦できる。そして皆さんが個人としても組織としてもさらにアップデートしていくことを願い申し上げます、私の挨拶と変えさせていただきます。ありがとうございました。

2023 年度の合同委員会の運動がスタートします。

- 本日の流れ説明 組織グループ担当常任理事 柿塚 健太郎 君
- 合同委員会

討議-1	自己紹介	
内容	人財アカデミー委員会自己紹介	
発言 1	発言者:	委員長 曾地 英樹
お疲れ様です。2023 年度人財アカデミー委員会委員長を務めさせていただくとなりました、曾地英樹と申します。どうぞよろしくお願いいたします。一年と二ヶ月ほど、時間としては動くのですけれども、精一杯頑張っておりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。最初に、自己紹介とのことでしたので、私から自己紹介をさせていただきます。私は、宮崎市田野町で電気工事業を営んでおります。電気工事業と言ってもいっぱいあるので、この業種というものはないのですが、機械関連や工場関連をやっておりますので、何かありますときは、よろしくお願い致します。		
発言 2	発言者:	運営幹事 大中 貴生
運営幹事を今年やらせていただきます、日建学院と言う資格の学校に勤めさせていただいております、大中貴生と申します。よろしくお願い致します。まだ入ったばかりで、右も左も分からない状況で、皆様にご迷惑をおかけする場面が多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻をいただけたらと思っております。何卒よろしくお願いいたします。		
発言 3	発言者:	二宮 雅和
二宮雅和と申します。職業は保険の代理店をしております、生保は 30 社ほど取り扱いをさせていただいております。どうぞお願いします。		
発言 4	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
岩倉です。仕事は建設業で、タイルと石材を取り扱っています。 JC は24から入ってます。何かわからないことがあったら聞いてください。 よろしくお願い致します。		
発言 5	発言者:	西本 誠
西本誠と申します。飲食業や政治家をやっております。11 月 10 日までは東京にいたのですが、その後は帰ってきて参加いたします。よろしくお願いいたします。		
発言 6	発言者:	副委員長 門口 将宏
人財アカデミー委員会、副委員長となりました、門口将宏と申します。来年で JC2年目です。よろしくお願い致します。		

討議-2	理事長所信読み合わせ	
内容	一般社団法人 宮崎青年会議所 2023 年度理事長所信	
発言 1	発言者:	委員長 曾地 英樹
一般社団法人宮崎青年会議所 2023 年度。 理事長所信 川越 大輔。 [はじめに]新型コロナウイルスが世の中に大きな影響を与えてから、約 3 年が経過し、未だ先行きの見えない中を進んでいかなければならないという状況が続いております。また、これまでの当たり前が通用せず、コミュ		

ニケーションの形も大きく変容をと遂げており、世の中はさらに変化していくことが予想されます。		
発言 2	発言者:	運営幹事 大中 貴生
<p>今後も先を見据えながら、その時々にあった方針を立て、柔軟に方向を転換しながら、社会により良い変化をもたらすような事業を構築していくことが私たちの使命であると考えます。</p> <p>[JCとの出会い]2014年、名古屋市から戻ってきた私は家業に入り、すぐに青年会議所の門を叩きました。</p>		
発言 3	発言者:	二宮 雅和
<p>高校を卒業してから宮崎を出ていた私にとって、知人と呼べる人は少なく、同世代の知り合いを増やしたいと思ったのが入会のきっかけです。入会当初は首都圏で働いていたこともあり、少しばかり鼻っ柱が強く、同期の誰にも自分が負けていないと根拠のない自信を持ちながら入会面接を受けたことを覚えています。</p>		
発言 4	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
<p>入会してからは、多くの先輩方の人間性の素晴らしさや考え方に驚き、また私が困ったときや悩んだ時にはアドバイスをいただいたことで道標を示していただき、私の自信は打ち崩されたのは言うまでもありません。</p>		
発言 5	発言者:	西本 誠
<p>特に2018年の全国大会宮崎大会に関わり、JCI日本への出向と式典担当を経験したことで全国の方と接点を持ち、いろんな視点を学ぶことができたこと、式典会場がオーシャンドーム跡地からメディアキットに2日間で修正して修正して完遂した時の達成感は今でも忘れることができません。</p>		
発言 6	発言者:	委員長 曾地 英樹
<p>このように私も青年会議所の単年度制の恩恵を受け、発展と成長の機会をいただき、いまこうして理事長所信を書いています。この8年間の経験で私は3つのことが必要であると考えます。</p>		
発言 7	発言者:	運営幹事 大中 貴生
<p>1つ目は連綿と受け継がれてきた創始の精神を次世代に引き継ぎ、世の中に合わせて進化しながら、社会に求められる事業を行う団体となること。</p> <p>2つ目は自ら課題を設定しそれに取り組むことのできる人材の育成と、青年会議所で受け継がれてきた恩送りの系譜を次の世代に伝えること。</p>		
発言 8	発言者:	二宮 雅和
<p>3つ目はわれわれがハブとなることで他団体を巻き込み、新たなカウンターパートをつくり事業構築していくこと。この3点を大切に1年間活動していく所存です。</p>		
発言 9	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
<p>『人は柱なり』</p> <p>ICI Mission に定義されているように、私たちは地域の若者にとって、発展と成長の機会を提供するプラットフォームでなくてはなりません。また同時に、入会したメンバーが地域をリードすることのできる人材へと成長するプラットフォームでないといけないとも考えています。</p>		
発言 10	発言者:	西本 誠

<p>私の入会した 2014 年、当時は 200 名を超えていた会員数も緩やかに減少しており現在も少しずつ減少しています。他の青年会議所と比較すると宮崎青年会議所の会員拡大は決して失敗していないと言えますが、事実として会員数の減少は起こっており、それは退会者にあると考えています。私の入会した 2014 年、当時は 200 名を超えていた会員数も緩やかに減少しており現在も少しずつ減少しています。他の青年会議所と比較すると宮崎青年会議所の会員拡大は決して失敗していないと言えますが、事実として会員数の減少は起こっており、それは退会者にあると考えています。</p>		
発言 11	発言者:	委員長 曾地 英樹
<p>まずは入会の際に青年会議所がどういう団体でどのような活動をしているのかといった理念共感型拡大を積極的に推進し、入会前になぜ他団体ではなく青年会議所じゃなければいけないのか、その部分を説明した上での入会促進を行いたいと思います。今は「JC しかない時代」ではなく、「JC もある時代」です。</p>		
発言 12	発言者:	運営幹事 大中 貴生
<p>私たちは社会によりよい変化を起こし、運動をつくっていかねばなりません。地域に眠る多くの課題の解決に向けて、ともに運動を行う同志を増やしていきたいと考えます。</p>		
発言 13	発言者:	二宮 雅和
<p>現在、在籍しているメンバーのうち、3 年未満のメンバーが約 6 割と在籍年数の少ないメンバーが増えています。また、昨今のコロナの影響によりオンラインでの事業が増えたことから、すべてのメンバーに発展と成長の機会の提供がなされているかという難しい状況です。</p>		
発言 14	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
<p>前述のとおり、退会する原因の多くは共感を得ていない、活動に積極的でないことから始まります。まず、入会 3 年未満のメンバーには多くの発展と成長の機会を提供し、多様化する価値観をしっかりと自分自身で受け止め、判断できるよう昨今の状況を踏まえた事業構築を行っていきます。</p>		
発言 15	発言者:	西本 誠
<p>また、アクティブでないメンバーに対しても改めてこの団体が人材育成の場になることを理解してもらいたいと思います。アカデミーのメンバーがアクティブになることで他のメンバーへも波及し、出席率の向上のみならず、事業参画への意識が改善し、改めてこの団体に所属するメリットを感じてもらえるような育成計画を構築します。</p>		
発言 16	発言者:	委員長 曾地 英樹
<p>『未来への投資』 明るく豊かな宮崎の実現を目指し、私たちはこの地域に住み暮らす子どもたちが安心して生活できる環境を構築し、それを推進する団体でなければなりません。文部科学省が提用する「GIGA スクール構想」のもと、2021 年に宮崎市内のすべての市立小中学校に高速大容量のネットワーク環境が整備され、すべての児生徒にタブレット端末が配布されています。</p>		
発言 17	発言者:	運営幹事 大中 貴生
<p>これはSociety5.0に向けた人材育成を目的としていますが、AIやIOTが急速に発展する現代社会において、従来のオフライン教育のみの教育からそれにプラスしたオンライン教育も活用した</p>		

STEAM 分野のスペシャリストを育成することは必要であると考えます。このAI時代の到来と慢性的な IT 人材不足の日本社会の中で、どこかのタイミングで企業側が受け入れる人材の多くが STEAM 人材とそうでない社員との考え方に相進ができることが想像できます。		
発言 18	発言者:	二宮 雅和
産・官・学におけるカウンターパートと連携し、宮崎に住み暮らす子どもたちがしっかりとこの時代の流れに取り残されない計画を立案し、実行していきます。 また国立青少年教育振興機構の調べによると、幼少期から中学生期までの自然体験が多い高校生ほど思いやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高いという結果を得ていることから、この宮崎の自然豊かな環境であるからこそ育める自然の学びを JC の山などを活用しながら実施していきます。		
発言 19	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
海外への渡航が困難な状況となる中、2年が経過し、国際社会とのやり取りが難しくなった今もなね、私たちは立ち止まることなく国際関係を維持していかなければなりません。また、国内の生産年齢人口の減少により外国人労働者の人口は増えており、移住外国人は依然、増加傾向にあります。		
発言 20	発言者:	西本 誠
2012年から続く国際フェスティバルも年々形を変えながら進化していますが、2022年に開催したワールドテラスでは県内に住み暮らす在留外国人の方々の自助共助を目的とし、ファンクションの中にその要素を含めました。気軽に国際交流ができない昨今において、県内に住み暮らす外国人移住者の方々が宮崎を好きになり愛してくれるよう運動を展開しておりますが、本年も互いに双方の文化を認め合い、コミュニケーションを増やしていくことが街の発展に繋がると考えます。		
発言 21	発言者:	委員長 曾地 英樹
また、近年リモートでのやり取りが続いているJCIポート、JCIマリーナとの交流も状況を鑑みながら交流を深め、姉妹 IC としての永続的な関係構築を図っていきます。 『想像を超える』 私たちは現代社会のすさまじいスピードの変化と Society5.0 の流れの中で多様な価値観に触れ、固定観念に縛られることなく新しい技術や考え方を自分のものにしていかねければなりません。		
発言 22	発言者:	運営幹事 大中 貴生
昨今、サイバー空間とフィジカル空間の双方での社会が現実化しており、予測のできない時代へと突入していきます。これまでの当たり前に縛られることなく新しい価値観に触れ、時代に取り残されないようにしなければなりません。		
発言 23	発言者:	二宮 雅和
イノベーションがますます進化する中でDXやメタバースの知見をメンバーが取り入れられるような事業構築を行い、視座を高く持ちながら運動を行ってまいります。		

また一方、これだけイノベーションが進化する中で開発された商品を購入するのも使用するのも結局は人間であるため、『人の役に立ちたい』や『人の生活を豊かにしたい』など、人の目線での商品開発ができなければ、世の中に必要とされません。

発言 24 | 発言者: | 副委員長 岩倉 誠吾

その目線を備えるためにゴールデンサークル理論を用い、なぜ必要なのか、なぜそれを行うのかといった視点を養い、多様な価値観にふれることでこれまでの型にはまっていた自分を振り返り、新しい感覚を学ぶ機会を創出します。ダイバーシティインクルージョンが広がり、私たちは多様化する社会の中で多くの問題を抱えています。

発言 25 | 発言者: | 西本 誠

厚生労働省の発表によると、2018年の子どもの相対的貧困率が13.5%だったことが分かりました。全国と比較しても宮崎県は下位の方に位置しておりますが、7人に1人が相対的貧困であると言われております。2021年から相対的貧困に対する認知事業を行っておりますが、昨年は認知を目的としたことでSNSを活用し、また他団体と連携しながら事業を推進し、様々な検証結果がみえてきました。

発言 26 | 発言者: | 委員長 曾地 英樹

表面上では見えにくい相対的貧困に対しても、現状に目をそむけることなく地域の課題として認識し運動になるよう他団体と引き続き連携しながら地域コミュニティの枠でこの課題に向けて取り組む事業を構築していきます。また、全国的に広がりつつあるベビーファスト運動も全国で36都道府県まで広がりを見せており、宮崎県もその中に含まれております

発言 27 | 発言者: | 運営幹事 大中 貴生

当LOMも子育て世代のメンバーがいるので、子供たちのためにできることを大人として、親として、企業人として探し、運動に繋がります。

『発信力を高める』

今年で22年目を迎えるまつりえれこっちゃんみやざきは地域の方々に広く親しまれ、ダンスをメインとしたまつりとして県内で広く認知されています。

発言 28 | 発言者: | 二宮 雅和

コロナの影響により開催できなかった2年間を経て、2022年に久しぶりの開催をすることができました。

年度によって様々な特色を出しながら県内でも有数のまつりとなった、まつりえれこっちゃんみやざきですが、高校生を中心としたダンスだけでなく、新たなコンテンツをつくり県外にも認知されていくようなまつりに昇華していかなければなりません。

発言 29 | 発言者: | 副委員長 岩倉 誠吾

当然、宮崎に住み暮らす方々のためのまつりでなければいけません、そのコンテンツや発信方法は広く多くの方の目に留まる形で進化していく必要があります。開催できなかった2年間と2022年の開催を経て、毎年組織を組むことも苦労していることから、前年卒業した先輩方に協力いただくよ

うなスキームを作り、With コロナ、After コロナを見据えた新しい形のまつりへと進化させていきます。		
発言 30	発言者:	西本 誠
私たちは年間を通じて多くの事業を開催し、その事業単位で広報活動を行ってまいりました。毎年開催している事業の認知度は幾何か高くなっていますが、単年度の事業においては興味のある方にしか届いておらず、一般市民へはまだまだ浸透していないのが現状です。		
発言 31	発言者:	委員長 曾地 英樹
事業単体での広報活動ではなく年間の広報計画をたて、SNSを活用しタイムリーに発信していくことが必要であると考えます。また団体としてのブランディング計画をたて、時代に即した広報活動を展開することで、なんとなく団体の存在を知っているだろう入会対象の方々を興味喚起し、会員拡大にも繋げて、新たな会員発掘を行っていきます。		
発言 32	発言者:	運営幹事 大中 貴生
そして運動を巻き起こす団体として、ただの報告だけにならないようその経過状況や運動を引き継いでくれる団体や個人の目に留まるような発信を行っていきます。		
「新しい組織体制強靱な組織は個人の成長から」 コロナ禍を経て、私たちはこれまで当たり前に行われていた「会議」の在り方と向き合う機会をもらいました。		
発言 33	発言者:	二宮 雅和
この状況が結果的にデジタル化を推進したわけですが、同時に会員同士の関係性が希薄になり、これまで学んできた諸会議設営の事前準備など、あらゆる面でそのひずみを感じています。組織としては動く際に必要なことは、個々人がその会議にあたりどれだけ事前準備を意識できているかだと考えており、そしてそれを同じ価値観で組織として共有し認識できているかだと考えます。		
発言 34	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
従って、理事会や総会はこれまでのような厳格な空気感は維持しつつ、状況に応じた臨機応変な対策を立てながら、時代に即した新しい会議運営を行ってまいります。		
組織の継続的な発展のためには透明性の高い財政審査とコンプライアンスはもちろんのこと、時代の変化に応じた諸規定のルールやマニュアルの改訂など柔軟な検討が必要であると考えます。		
発言 35	発言者:	西本 誠
ですが、JCI日本の基準も年々変わり、進化しています。メンバーがJCI 日本の基準と同等のコンプライアンス基準を理解できるようLOM内に浸透させていきます。		
発言 36	発言者:	委員長 曾地 英樹
2021年に事務局検討委員会を立ち上がり、メンバーからでた様々な意見を集約し、これまで理事のみしか持ってなかった鍵をメンバー全員がカードキーとして所有することになりました。これにより会員の不平等をなくし、会員がいつでも役職に関わらず事務局を利用できるようになりました。		
発言 37	発言者:	運営幹事 大中 貴生

<p>また毎月の委員会の開催や会場の予約もSLACK を活用したルールへと変更し、デジタル化を推進しております。今後も事務局のシームレスな連携とプラットフォームを作成することでメンバーが活用しやすい事務局運営を行います。</p>		
発言 38	発言者:	二宮 雅和
<p>『全国大会宮崎大会の5年検証』</p> <p>2018 年に開催した全国大会宮崎大会の開催は JCI 日本の出向者の方々、宮崎 IC シニアクラブの先輩方や九州地区内の副主管の皆さまと大会構築を行い、その夢を実現することができました。開催中の荒天により幾多の変更がありましたが、それもまた私たちを大きく成長させ、その後の事業構築にも大きく影響してきました。</p>		
発言 39	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
<p>主管獲得から全国大会開催、そして今日に至るまでの成果を振り返り、関わられた方々への感謝の意を伝えるとともに今後の青年会議所の発展へと繋げます。</p>		
発言 40	発言者:	西本 誠
<p>『結びに』</p> <p>私の好きな詩にロバートフロストの選ばなかった道という詩があります。</p> <p>一方は踏みならされた道</p> <p>もう一方は誰も踏みならしてない未開の道</p> <p>私は後者をえらんだ</p> <p>それが大きな変化をもたらした</p>		
発言 41	発言者:	委員長 曾地 英樹
<p>人生は選択の連続である。日々、目の前にある選択と向き合い結論を出すわけですが、それは全て自分の未来に繋がっています。</p>		
発言 42	発言者:	運営幹事 大中 貴生
<p>安定を求めることなく多様化する価値観を受け入れ、現状に甘えることなく変化し続けていこうではありませんか。</p> <p>全ては明るく豊かな社会の実現のために</p> <p>住み暮らすこどもたちのために</p> <p>まだ見ぬ誰かのために</p>		
発言 43	発言者:	委員長 曾地 英樹
<p>あとメインタイトルとして、今日連絡のメールで送ったアップデートが来年度のスローガンとなりますので、よろしく願いいたします。</p>		

討議-3	各会議体、委員会、局の事業説明	
内容	:事業説明	
発言 1	発言者:	委員長 曾地 英樹

私のサマリーが一応添付してあるのですが、昨日スタッフ面談があり、合格をいただきました。サマリーの方も、通りましたので、よろしくお願いいたします。1年間、これで走らせていただきますので、そこに内容として3つ挙げてます。当委員会の事業としては、1つ目にアカデミー育成規事業として、入会3年目までの方の育成の方を、年間通してやっていこうと考えております。内容については、後でまた話させていただきます。

そして、2つ目に3月例会のメインアワーとして、当委員会が担当になりますので、そちらの方の事業構築を行っていきたいと思います。

そして3つ目がサマーコンファレンスの参加推進になります。サマーコンファレンスが毎年7月に開催されてますが、当委員会が担当になります。皆さんで行って、そこに林さんも一緒に案内できればな、と考えておりますので、よろしくお願いいたします。

年間フレームがその後ろに貼りつけてあります。一応、こういう流れで活動していきますが、昨日スタッフ面談の時に、理事長からアカデミー推進事業では、どういったことをやるのかが見たいってことで、11月の報告させていただいて、前倒しの方になる予定になりました。そのあたりが修正になるかと思えます。

年間フレームに関しては以上になります。

アカデミー推進事業について、別紙の方で、年間の流れを書いておりますが、前後するところはあるのかと思うのですが、メインとしては、アカデミー会員の育成事業ということになります。

コロナ禍で、今までできなかったことが結構多いですので、宮崎JCの歴史が71年間。どういった事業をやってきたのかっていうのを、広報誌を見ながら、皆で勉強します。

その学習していく流れで、歴史を体験するということで、JCの山っていうのがあります。私が2019年に入会時に1度登ろうとしたのですが、雨のため中止になったため、私も経験してないです。

JCの山を、ここで経験してるまますのはおそらく、岩倉副委員長が経験ぐらいで、経験した人があんまりいないですね。そこを皆さんでもう1回登る活動をしたいと思います。

そのJCの山についても学習していただきます。

なんでこれが生まれたのかとかは、私は色々聞いたのである程度わかってるのですが、半分以上のメンバーが知らないと思います。現在、管理されてますが、佐藤産業の佐藤先輩ですので、挨拶に行っって、話をさせていただこうとは思ってます。

私たちが行ったところで、何もできないだろうとは思うんですよね。ただ、どんな経緯で山ができたのかなどは直接お話ししていただきたいとは思ってます。この事業は4月から5月にかけてと考えてます。

次に6月7月にJCフェスタとJC国際フェスティバルとえれこっちや宮崎がありますので、その参加推進をアカデミー生にしていただきます。

LOMの事業に携わることで、会員交流を目的とした携わり方は、もういいんじゃないかという話もいただいたので、そちらをどのように育成につなげていくかを今後考えてまいります。

④にゲストの講和って書いてるんですけども、今年度の日本青年会議所の中島会長に来ていただ

いて、JC とはどのような団体かというのを改めて、宮崎青年会議所以外に宮崎ブロックの方にも声をかけさせていただき、宮崎県内の LOM にも案内も送ろうと思ってます。

こちらはブロックと協議して日時を決めて、中島会長をお呼びして、JC とはどんな団体で、こういう目的で立ち上がったのかななどを、もう 1 回、話をさせていただきたいなと思っております。

それを踏まえて、議案構築の勉強会の方に走らせていきます。

せっかく歴史を学びましたので、歴史で何があったのかと、4 月 5 月 6 月 7 月で、いろんな事業に携わって、8 月 9 月 10 月で、同グループの拡大委員会の方と一緒に発表の場を考えております。

今年は、模擬議案を作るだけではちょっと面白くないと思ってるので、2024 年度に活かせる議案構築みたいなものを、歴史を学んだことから話していただいて、何か実現可能なことを構築していこうかな、と考えております。

これがアカデミーに関しての推進議案になりますので、まだざっくりとした流れになるのですが、こんな形で進めていこうと考えております。

今度、3 月例会メインアワーというところで、これは理事長からのお願いではあるのですが、今年が 2018 年の、第 67 回全国大会宮崎大会が開催された 5 か年検証の年っていうのもあり、現在在籍してるメンバーの 54% が経験しておりません。

この宮崎大会に対して検証の年といっても、宮崎大会を知らないメンバーが多いことから、どういった事業だったのかっていうのを、もう 1 度、皆さんに教えてほしいという依頼もありました。

宮崎大会がどうだったのかってを、当時の理事長である長友剛先輩と、当時の実行委員長である川越英和先輩にお越しいただいて、その時の話など、いろんな思いなどを話していただければなと考えています。

また、黒木俊輔さんと話をして、写真が 1000 枚ぐらいあるらしいですね。

その写真を、私たちのアカデミー会の方で選びたいと思います。なお、動画に関しても、20 か 30 ぐらいあるらしいので、全ての動画を見るだけではつまらないので、動画を 2 個ぐらい、その中でスライドを何枚か使って、思い出の話とかをしていければなって考えてます。

この部分で 30 分ぐらいの時間を見ております。

それが終わった後、開催から 5 年目で、宮崎の今は何が変わったかを、テーマ毎に一度皆さんで話をしていただきたいと思ってます。

さらに、全国大会は渉外事業になるので、推進も含めて、どういう渉外事業がありますよ、というのを、1 年間のカレンダー形式にそれぞれ発表していただこうと思います。

例えば 1 月に京都会議があります。では、京都会議は何を目的として開催されてるのかを参加したことのあろメンバーに発表していただこうと思ってます。このように全ての渉外事業についてかंगाえております。

それが 3 月例会のメインアワーとして考えているのですけれど、今後協議して参りたいと思います。

3 つ目のサマーコンファレンスは、神奈川で開催されるサマーコンファレンスがあります。

二宮君が出向としていきますので、是非ともみんなで盛り上げるためにも、フォーラムを皆で見に行

きましょう。
 以上が当委員会の事業内容になります。
 どうぞ、よろしくお願いいたします。

討議-4	拡大について	
内容	拡大について	
発言 1	発言者:	委員長 曾地 英樹
この後、拡大キックオフも開催されますのでよろしくお願いいたします。 名簿で記載しているものでも変更なければ名前を入れてください。		
発言 2	発言者:	運営幹事 大中 貴生
拡大部長になりました、大中です。内容に関しましては、グループラインでお送りしたものをご確認ください。私も一人確定しております。小林の建設会社でゴゾノハウジングと言う会社の方ですが、宮崎でエクステリアの会社を出すため、小林青年会議所から転籍されてきます。		

討議-5	出向者について	
内容	出向のお願い	
発言 1	発言者:	委員長 曾地 英樹
理事長の面談があった際に言われたのですが、是非とも、当委員会からも、日本、九州地区、宮崎ブロックの方のアカデミーに関する事業構築される委員会に出向していただきたいという要望がありました。まだ、その辺りがどういう風な委員会になるか、わからないのですが、出向したいなって思う人、いらっしゃいますか。		
発言 2	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
私が九州地区行きます。		
発言 3	発言者:	西本 誠
出向はダブってもいいのでしょうか。		
発言 4	発言者:	副委員長 岩倉 誠吾
九州地区は、この月は大分で委員会です。大分来てください。来月は熊本でやりますから来てください。という風に、遊びに行ける感じで九州行けます。 来れる時だけで良いです。 来たら、よく来てくれました、ありがとうございます。っという感じで、お客様扱いしてくれる、県外の人たちとすごい仲良くなれる、あちこちにも知り合いができたりします。		
発言 5	発言者:	委員長 曾地 英樹
出向すると面白いですよ。本当に、僕も去年ぐらいからこう出向してるのですが、他の県の人たちと交流ができるから、懇親会に行った時に何言ってるかわかんない。そういう交流がいっぱいあるから面白いです。出向に行くどンドン JC の面白さがわかってきます。		

西本さんとかも東京とか知り合いいっぱいいるから、日本に出向すると面白いですよ。
それでは日本に出向が決まっている二宮くんからアピールをお願いいたします。

発言 6 | 発言者: | 二宮 雅和

来年私が出向する委員会が、わかりやすく言うと防災インフラ系ですよ。宮崎とかだと毎年台風が来ますよね。

今年、専務をやられてます河野さんが来年委員長として行くのですけれども、これは日本のインフラとかそういったのをより充実させていこうっていう感じの委員会です。

災害の地域には、行けないかもしれないですけど、それは自分達の上役の人間たちが行くって感じなので、7月のサマコンでフォーラムがありますので、こういうタイミングとかで来てくれるだけで良いので来てください。

発言 7 | 発言者: | 委員長 曾地 英樹

特にはブロックの方にも1人出向していただきたいです。

連携を取るために、それはちょっと別で話をしていきますので、よろしくお願いいたします。

討議-6 | AWARD MIYAZAKI 2023 について

内容 | 伝達事項

発言 1 | 発言者: | 委員長 曾地 英樹

アワードアワード賞が、今年も開催されます。

添付してます、アワードでいろいろな賞がありますので、みんなで獲得をしてください。アカデミー賞っていうのが、議案上には上がってましたので、アカデミー生に対しての賞っていうのもあります。一年間で皆さんも一緒に獲得していければなと思ってますので、よろしくお願いいたします。

9 拡大キックオフ

人財拡大委員会

10 閉会宣言

副理事長

高畑 智穂 君

<次回会議開催日> (未定) :